

発想や構想の能力を育てる図画工作科の授業展開例

1 学習指導要領解説編の記述より

新学習指導要領解説の第2章第2節2の(1)において、以下のように述べられている。

(本文中の波線は筆者による加筆)

「A表現」の(2)では、このような学習活動を通して、一人一人の資質や能力を十分に働かせ、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることになる。そこで「活動を通して、次の事項を指導する」と示し、発想や構想の能力、創造的な技能を活動の対象や方法に沿って三つの事項ア、イ、ウを指導することとした。

アは、感じたこと、想像したことなどから、自分の表したいことを見付けて表すという活動の概要を示し、主に表現の始まりにおける発想や構想の能力に対応している。イは、自分の表したいことや用途などを考え合わせながら、色を選んだり、形をつくったり、計画を立てたりするなどの活動の方法を示し、主に表現の過程における発想や構想の能力に対応している。

<学習指導要領解説p.16>

育てるべき発想、構想の能力には2つの種類がある。一つは「表現の始まりにおける発想や構想の能力」、もう一つは「表現の過程における発想や構想の能力」です。

また、各学年ごとの発想や構想の能力の特徴について以下のように記述されている。

【低学年】

低学年の児童は、造形活動において、形や色、材料などに自ら働きかけ、表したいことを見付け、それを表す方法を考えながら、また材料などに働きかけるという、行きつ戻りつするような活動をする特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。 <学習指導要領解説p.22>

【中学年】

中学年の児童は、造形活動において、夢や不思議な世界についての想像を楽しんだり、用具を使うことに没頭したりするなど、活動そのものに夢中になるような特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。 <学習指導要領解説p.32>

【高学年】

高学年の児童は、造形活動において、一人一人の特性や傾向がはっきりしてきて、その子らしい主題で表そうとしたり、手ごたえのある材料や用具を使おうとしたりするような特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。 <学習指導要領解説p.44>

このことから、発想や構想の能力を育てる指導については、上記の児童の発達の段階に十分に配慮する必要がある。

2 発想や構想の能力を育てる指導のポイント

(1) 多様な発想を促す題材名の工夫

ア 題材名決定時の配慮事項

- 児童一人一人が主題を見付けられる題材名
- 児童一人一人が創造活動を楽しもうとする意欲がわく題材名
- 児童一人一人が活動のイメージを豊かに思い描けるような題材名
- 児童一人一人の発想や表現を限定することなく、豊かに広げられるような題材名

イ 具体的題材名

- 案内的・提案的な題材名
 - ・ 板の変身 ・ 私たちの未来都市
 - ・ 魔法のとびらを開いたら
- 活動内容を促す題材名
 - ・ 切って、追って、くっつけて
 - ・ つんで、つんで、うんとつんで
- 感覚的なものを表す題材名
 - ・ ゆらゆらごろごろ
 - ・ ペったん、ペったん
 - ・ たかい、たかい
 - ・ のびるのびる

ウ 補充的な題材名

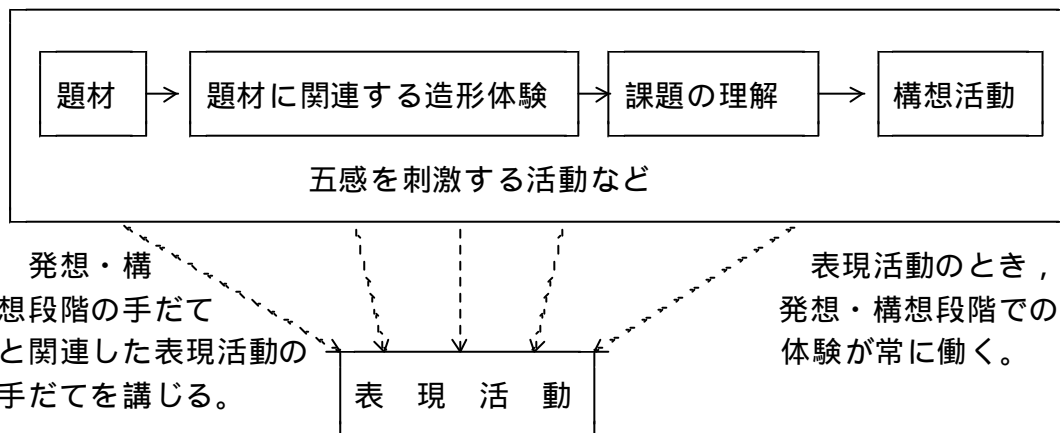
- ・ 粘土の変身（私のお母さんへのプレゼント）

エ 複数の題材名

- ・ 笑った顔、泣いた顔、不思議な顔..

(2) 五感に訴え思いを広げる

ア 五感に訴える思いの広げ方



イ 具体的、五感に訴える思いの広げ方（視覚、聴覚、触覚）

- 視覚に訴える思いの広げ方.....・教科書、参考作品、実物・材料を見せる。
 - ・ 視聴覚機器を使う（OHP、ビデオ、スライド、プレゼン等）。
 - ・ 紙芝居や掛け図を使う。
- 聴覚に訴える思いの広げ方.....・音楽や題材に関連した音を流す。
- 触覚に訴える思いの広げ方.....・実際に材料に触れさせる。
- 視覚、触覚ともに訴える思いの広げ方.....・操作活動（材料遊び等も含む）を行う。

(3) 発想・構想段階における発想を助ける手だて

児童生徒の発想を促すための指導法については、固定したものがあるわけではなく、発達の段階や教材内容によって方法が工夫されるものである。

（例）【物語の絵を描かせる場合】一つの物語を提示して、感想画を描かせる場合

- 話の提示や感受のさせ方の工夫
- 話の要件
 - ・ 内容が鮮明であること
 - ・ 明るいさわやかな内容であること
 - ・ 話の中に絵になる場面が二、三含まれていること。
 - ・ 話の長さは十分程度であること。
 - ・ イメージを形象化させる方法をとること。

【彫塑表現】

- 児童生徒が経験したり、感じたり、考えたりした量感を、触覚を通して直接感じ、確かめながら表現していくことが大切である。
- 表現の対象を見てとらえることだけでなく、触れることによって新たな発見をさせる。

【デザインや工作】

- デザインや工作をする場合の発想は、見たり、聞いたり、使ったり、つくったりした既存の経験や知識がよりどころとなってくる。経験を広げるため、児童生徒に資料を収集させたり、導入段階で数多く（選択的に・意図的に）の参考作品を見せたりしながら、そこから得たヒントを基に新しいものを生み出させていきたい。つまり模倣から創造へ高めていくことが大切である。

(4) 発想・構想段階での見通しをもたせる場と手だて

- | | | |
|----------|------------|---------------|
| ○ 試行錯誤の場 | ○ アイデアスケッチ | ○ 学習環境（計画表など） |
| ○ 学習カード | ○ ポートフォリオ | 等 |

(5) イメージを強化する具体的手だて

日常的に児童生徒は経験に基づく様々な内的イメージや視覚情報として、押し寄せる視覚的イメージの中に住んでいる。そのイメージを再認識し、より強化する指導・支援の方法を考える必要がある。

感覚を遮断することから

感覚を遮断することで、対象や見え方に対する認識を再考することにつながる。そのため、アイマスクをしたり、箱に隠したものを想像したりすることなどによって、感覚イメージを高めることにつながる。

ものを集めることから、材料にこだわることから

児童にとって、ものの集めは、科学的興味やイメージの源泉である。児童の集めたシール、カードなどはキャラクター商品が多いが、同類異種（人形でコスチュームが違ったもの）、異類同種（ボール、卵などの円形が共通したもの）を比べることが弁別能力やこだわりを育てる。そこから物語や新たなイメージをつくり出すのである。

マイナスイメージからの出発から

表現だけでなく、見ることを主体としたイメージする力の育成も重要である。マイナスイメージとは、完全な状態からその一部が欠如した状態を意味する。ピンぼけ写真は、見たいという欲求を誘発するし、ミロのビーナスは、腕がないことでどういったポーズをしていたのかという想像を膨らませる。

いろいろな視覚イメージを鑑賞することから

ある対象物を見て、おもしろい（感情）→「よし私も違ったものを描いてみよう」

(表現意欲・異種同類のイメージ)といったイメージが発生する。外的イメージを見る経験の積み重ねが受容、分析、批判、選択といった鑑賞力につながる。それによって、イメージを操作する力、イメージに共感する力、イメージを批判する力となる。こうした考えを基にしながら、場所(空間)、材料(素材)、行為、対象(イメージ)、言葉、自分に関わる指導の実際について考える。

3 発想や構想の能力を育てる授業の展開例(4年生)

~~~~~部分が発想や構想の能力とかかわる部分

#### (1) 題材名 すてきな風景(絵で表す)

#### (2) 題材について

本題材は、自分の学校や身近な場所で見つけた感動や驚き、好ましく思ったことなどを自分なりに表せるように、線描や画面構成、彩色の工夫をしながら絵に表す題材である。(中略)

#### (3) 指導にあたって

本題材の目標を実現していくために次のような点に留意して指導していきたい。

「思いをもつ」過程では、参考作品を鑑賞し、その作品から受ける感じと作品の表現の工夫について話し合い、友達の見解も参考にしながら、いろいろな視点で関連付けて意識できるようにする。そして画面構成や色彩のよさに気付くことで、自分の思いに合った納得のいく表現への見通しをもつことができるようにする。また絵に表すという題材全体のめあてをもち、完成までの見通しをもって取り組むことができるようにする。

「思いをふくらます」過程では、見つけた感動や驚きから自分の描きたい対象を決め、その際に完成させたい絵の簡単なタイトルを決めるようにすることで、表現意図を明確にして取り組むことができるようにする。

「思いをあらわす」過程では、自分の感動や驚きを伝えるための画面構成や彩色について話し合い、効果的な表現の方法を考えることができるようにする。

画面を構成する際には、対象をいろいろな角度から見たラフスケッチを複数枚描かせることで、自分の思いに合った構成を見つけることができるようにする。彩色をする際には、参考作品の鑑賞を通して捉えた「彩色の仕方」を基に、見通しをもって、自分の思いに合った彩色を行うことができるようにする。また、個に応じて、配色カードを両面に直接当てて配色を確かめさせながら活動を進めていくことで、彩色に対する不安を取り除き、安心して活動できるようにしたり、試し紙(試しに彩色できる用紙)も準備し、つくった色がどんな感じになるのかを確かめながら彩色を進めるようにしたりすることで、自分が表現したいイメージに近付けることができるようにする。(中略)

#### (4) 指導計画(全10時間)

| 時 | 主な学習活動                                                                                                                                                   | 教師の指導と重点評価項目や評価方法                                                                                                                                                                                                    |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1 参考作品を鑑賞して、自分がもった感じや思いを話し合う。<br>2 題材全体のめあてをつかむ。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分の感じたことが伝わるように工夫して絵に表そう</div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品を見て感じたことや、感じた部分の様子について話し合うことで、自分の思いや感じたことをどのように描けばよいかわかる見通しをもつことができるようにするとともに、表現意欲が高まるようにする。</li> <li>参考作品の鑑賞を通して、造形要素に着目させながら話し合いを行うことで、具体的な表現方法について、子ども自身がまと</li> </ul> |

|   |                              |                                                                                                                                                                                                                   |
|---|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8 | 3 スケッチ大会での取り組み方について見通しをもつ。   | め、コツとして生かすことができるようにする。                                                                                                                                                                                            |
|   | 4 自分が感じたことを意識して両面を構成し、線描する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象を目の前にして感じたことを基に、自分の作品のタイトルを事前に決めるようにすることで、作品をどのように完成させていきたいかのイメージをもつことができるようにする。</li> <li>対象をいろいろな角度から眺めたラフスケッチを複数枚がらせることで、自分の思いに合う構成を選んだり、直したりして、線描できるようにする。</li> </ul> |
|   | 5 参考作品の鑑賞を通して、彩色の方法を確認する。    | ラフスケッチや参考資料を手がかりに、自分が描きたい風景を構成することができる。                                                                                                                                                                           |
|   | 6 配色の構想を練って、思いに合った彩色をする。     | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な彩色の仕方（色の選び方、色の作り方、筆の使い方）をしっかりと確認することで、見通しをもって自分の思いを表現できるようにする。</li> <li>試し紙を準備し、両面に彩色する前に、試しに混色したり、混色したものを両面に当てたりすることで、彩色の見通しをもち、自信をもって彩色できるようにする。</li> </ul>          |
|   | 7 互いの表現を振り返り、新たな課題を基に表現を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>過程の中間に鑑賞の時間を取り入れ、自分の表現を振り返ったり、友だちと語り合ったり、友だちの表現に触れたりする活動を通して、表し方を工夫したり、修正したりすることができるようにする。</li> </ul>                                                                      |
| 1 | 8 作品鑑賞会を開く。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>線描や両面構成、彩色を工夫して自分の思いを効果的に表現することができる。</li> <li>互いの作品を鑑賞することで、互いの作品のよさに気づき、表現できた喜びを味わうことができるようにする。</li> </ul>                                                                |

(5) 本時（6 / 10）

| 過 程         | 主な学習活動と予想される子どもの反応                                                                                                                                                                                                  | 教師の働きかけと留意点                                                                                                              |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導 入<br>(8分) | <p>1 前時の学習を振り返りながら、参考作品の彩色について話し合う。</p> <div>これらの作品を見て、どんな感じを受けますか。どんな風に色を付けてみようと思いますか。</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>これは明るい元気な感じがするね。</li> <li>中心に描いているものを明るい色にしてみたらいいと思うよ。</li> </ul> </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを振り返り、その思いを表すための方法について話し合うことで、活動への意欲を高めることができるようにする。</li> </ul>              |
|             | <p>2 学習課題を確認する。</p> <div>「色づくり」や「筆づかい」を工夫して、自分の思いを表現しよう。</div>                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>付せんを準備し、自分の感じたところにメモを残していく活動を行い、自他のメモを参考にすることで、様々な視点で彩色の工夫を発見できるようにする。</li> </ul> |
|             | <p>3 自分の感動や驚きを表すには、どんな色づかいが効果的なのか話し合う。</p>                                                                                                                                                                          |                                                                                                                          |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展 開<br>(30分) | <p>自分の絵のタイトルに合うような色づかいは、どのようににしたらいいかな。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>部分的にだけでなく、周りとの比較も視点に入れるような言葉かけをすることで、配色の工夫にも気付くことができるようにする。</li> <li>試し紙を配付し、色づかいを試しながら彩色できるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 展 開<br>(30分) | <p>・力強い感じを出すために、絵の具をたっぷり使えばいいかな。</p> <p>・明るい色を中心に、学校の楽しい感じをかいてみよう。</p> <p>・葉っぱは緑が生き生きしてたな。あの色はどうつくればいいかな。</p> <p>4 色づかいや筆づかいの基本的な約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>色づかい<br/>混色：パレットへの色の置き方<br/>濃淡：描きたい中心と背景の違い</li> <li>筆づかい<br/>水加減：筆によく含ませる。<br/>筆勢：ゆっくり丁寧に</li> </ul> <p>5 自分の思いが伝わるような彩色をする。</p> <p>・絵の具をたっぷり使ったら、お鍋の大きな力強い感じが表現できたよ。</p> <p>・明るい色を中心にかいたら、楽しい感じができたと思うよ。</p> <p>・ゆっくり丁寧に色をつけていったら、葉っぱが生き生きしたよ。</p> | <p>【重点評価項目】</p> <p>自分の思いを表す彩色の仕方について、見通しをもちながら彩色することができたか。</p> <p>見通しをもって活動できている子ども→彩色の見通しをはっきり確かめることができるようにしたり全体の中で称賛したりして、意欲を更に高めることができるようにする。</p> <p>見通しはもっているが、活動が進まない子ども→具体的な彩色の技法を参考にしたり、試し紙や配色カードを活用しながら考えるように働きかけるようにする。</p> <p>見通しをもつことができず、活動が停滞している子ども→教師と一緒に資料写真を見たり、参考作品のよさを確かめたりすることで、子どものつぶやきを引き出し、見通しを言葉にできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配色カードを活用することで、彩色に対する不安を取り除くことができるようにする。</li> <li>一人一人の表現のねらいや表現の技法に応じた称賛や助言などを行う。</li> <li>教師が意図的に選んだ作品を鑑賞することで、自分や友達の表現のよさに気付くようにするとともに、本時で活用した「コツ」をまとめさせ、次時での活用への意欲が高まるようにする。</li> </ul> |
| 終 末<br>(7分)  | <p>6 学習を振り返り、次時への意欲を高める。</p> <p>・互いの作品を鑑賞し友達の作品の良いところを見つけながら本時で生かした「コツ」を確かめ合い、次時に生かせるようにする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>配色カードを活用することで、彩色に対する不安を取り除くことができるようにする。</li> <li>一人一人の表現のねらいや表現の技法に応じた称賛や助言などを行う。</li> <li>教師が意図的に選んだ作品を鑑賞することで、自分や友達の表現のよさに気付くようにするとともに、本時で活用した「コツ」をまとめさせ、次時での活用への意欲が高まるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

「鹿児島市立山下小学校の実践をもとに作成(H21)」